

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人 咲福社会

自：令和2年4月 1日

至：令和3年3月31日

令和 2 年度事業報告

事業の概要

【社会福祉事業】

1, 第一種社会福祉事業

なし

2, 第二種社会福祉事業

(イ) 就労継続支援 B 型事業「街なか作業所にっこにっこ倶楽部」

(ロ) 多機能型事業（就労移行、就労継続支援 B 型）「にっこにっこファクトリー」

(ハ) 共同生活援助（グループホーム日和）「ホームかたくり」

【公益事業】

なし

【収益事業】

なし

社会福祉法人として 2 年が経過しました。組織的にも体力的にもまだまだ未熟な法人ではありますが、発足当初からの基本方針である「自立と地域生活を支援する」を実現するため、コロナ禍で先が見えない中ではありますが令和 2 年度事業計画の通り、令和 2 年 11 月に共同生活援助（グループホーム）を開所しました。

事業状況（総括）

令和2年度は、期初から新型コロナウイルス感染症の影響や不安の中、更なる感染予防対策や質の良いサービスの維持と持続可能の確保に向け、新たな支援形態の試みと実施事業や生産活動の見直しを行いました。

感染予防対策については、事前アンケートを実施し時差勤務、在宅支援、家族送迎など臨時的な処置として対策を講じました。また、新たに空気清浄機6台を購入し各事業所各作業場などに配置するとともに換気、蜜の回避、体温チェック、消毒とマスクの徹底など出来ることを確実に実行しています。

実施事業と生産活動の見直しについては、街なか作業所につこにつこ倶楽部の定員を20名から25名に増員し、利用者ニーズに対応しました。また、多機能型事業所につこにつこファクトリーの就労移行援事業を令和3年3月末日にて廃止し、制度ありきではない利用者ニーズに応えた就労移行支援を目指し動き出しました。

そして、経済活動が低迷するからこそ、既存自主事業の周知や新商品開発、下請先の開拓等主体的に行えるようになった1年でした。

人事面では、支援職員の処遇改善を継続して実施しており、令和1年10月から特定処遇改善加算も取り入れ、前年度は1年を通して長く活躍してきた職員や介護福祉士などへの処遇改善を行いました。

法人役員・評議員

【役員、評議員】（令和3年3月31日現在）

役員	定数	氏名
理事	6	松島肇(理事長)、星野一雄(会長)、板橋清一(副理事長) 塩崎玲子、関口裕、松島弘平
監事	2	小倉基、森口恒雄
評議員	7	湯浅正雄、今泉登志子、小倉秀明、櫻井隆、安田節治 石原浩子、小倉一

理事会・評議員会開催状況

【理事会】

第7回（定足数：理事 6/6、監事 2/2）

- 令和2年6月25日(木)
- ・令和元年度事業報告、収支報告、監査報告
 - ・役員改選に伴う理事、監事の選任
 - ・グループホーム及び敷地を、みどり市へ担保提供承認依頼することについて
 - ・定款変更について
 - ・定時評議員会の招集について

第8回（定足数：理事 6/6、監事 2/2）

- 令和2年7月15日(水)
- ・理事長、会長、副理事長の選任について
 - ・令和3年度社会福祉施設整備事業の申込みについて

第9回（定足数：理事 6/6、監事 2/2）

- 令和2年10月22日(木)
- ・街なか作業所につこにつこ倶楽部の定員増について
 - ・につこにつこファクトリー事業変更について
(就労移行事業の廃止とB型事業の定員増)

第10回(書面)（定足数：理事 6/6、監事 2/2）

- 令和3年1月27日(火)
- ・理事会の招集について
 - ・運転資金の借入について

第11回(書面)（定足数：理事 6/6、監事 2/2）

- 令和3年3月12日(金)
- ・令和3年度事業計画について
 - ・令和3年度収支予算について
 - ・送迎車購入と借入について

【評議員会】

第4回（定足数：評議員 7/7、監事 2/2）

- 令和2年7月15日(水)
- ・令和元年度収支決算及び財産目録の承認について
 - ・次期役員の選任について
 - ・グループホーム及び敷地を、みどり市へ担保提供承認依頼することについて
 - ・定款変更について

内部監査結果

令和3年6月16日（水）に当法人の監事による令和2年度事業報告及び決算諸表の監査を実施しました

経営状況について

【法人全体の収支】前年対比 （詳細は別紙決算書の通り）

障害福祉サービス事業収入は 8,972,716 円増加の 88,171,538 円、就労支援事業収入は 1,418,258 円減少の 7,883,784 円、経常増減差額は 4,137,445 円減少の 983,957 円となりました。

主な要因は、(1) につこにつこ倶楽部の定員増と、新規事業ホームかたくりの利用率が安定していないことにより、障害福祉事業収入が当初予算より 3,969,862 円減少した。(2) コロナの影響による経済活動の落ち込みにより、就労支援事業収入が当初予算より 2,051,216 円減少した。(3) 新規事業として共同生活援助（グループホーム）を新設するにあたり、消耗備品費が前年比 1,167,973 円増加した。

令和2年度においては、定員増そして共同生活援助事業など多様化する利用者ニーズに応え取り組んだものであり、しっかりと基盤を固めることにより、今後の業容拡大につながるものと確信しております。

【重点目標に対する評価】 評価：できた○、だいたいできた△、できなかった×

年間計画	取り組み	評価
組織の強化と環境整備	訓練・作業室等既存設備の見直しを行い、生産活動や教育環境の向上を図るための実態把握と実現可能な計画策定の実施	△
	階層別人事の確立及び将来を見据えた人員確保に努め、余裕を持った人員確保を目指す	×
	職員の教育機会を充実するため、職場内研修・外部研修・外部団体交流等学べる機会の拡充と推進	△
	時代の流れに柔軟に対応するため就業規則、人事制度等の随時改善を図る	×
	健全な法人経営と積極的な情報公開を行うため、第三者機関や理事会などの助言や協力の強化を図る	×

福祉サービスの向上と新たな事業の推進と開拓	利用希望者の要望に応えるための定員増の実施	○
	利用者や家族のニーズ実現と地域生活支援拠点等整備の一環として共同生活援助の開設	○
	誰もが安心できる幅広い地域生活支援を実施するため、自立訓練（生活訓練）事業の調査・研究等実現に向けた準備を行う	×
	日常生活自立支援事業や法人成年後見人制度の調査・研究等を行い今後に向けた準備と受諾	×

【法人借入金償還状況】 ※元金のみ（単位：千円）

借入先	当初借入額	償還済額	当期返済額	借入残額	備考
桐生信用金庫	3,020	2,016	1,008	1,004	運転資金
桐生信用金庫	2,000	1,260	1,008	740	運転資金
桐生信用金庫	35,000	735	735	34,265	ホームかたくり
桐生信用金庫	10,000	0	0	10,000	運転資金
足利銀行	7,000	2,772	1,008	4,228	運転資金
足利銀行	6,000	1,100	1,100	4,900	運転資金
足利銀行	32,741	1,290	1,290	31,451	ファクトリー
合計	95,761	9,173	6,149	86,588	

職員の状況

【職員配置状況】（産休及び病気休職者は除く）（ ）兼務

	管理者・サビ管	生活支援員	職業指導員	就労支援員	目標工賃達成指導員	世話人	宿直	合計
にっこにっこ倶楽部	1	3	4	0	1	0	0	9
多機能型ファクトリー	1	2.5	2	1	1	0	0	7.5
ホームかたくり	(1)	1	0	0	0	2.5	1	4.5
合計	2	6.5	6	1	2	2.5	1	21

【資格等の取得状況】（休職者を含み、複数の資格を持つ職員もいます）

	介護福祉士	社会福祉主事	介護職員初任者 (ヘルパー1・2)	保育士	福環コーディネーター2	福祉用具専門 相談員
にっこにっこ倶楽部	2	2	3	1	1	1
多機能型ファクトリー	2	2	3	1	0	0
ホームかたくり	0	0	0	0	0	0
合計	4	4	6	2	1	1

【1人当たりの年間収入額】（非常勤パート職員及び中途採用者除く）

職 責	人員	平均年齢	平均年収
常勤・非常勤理事	3 人	69 歳	3,368,000 円
施設長・サービス管理責任者	2 人	47 歳	4,523,923 円
主任	3 人	47 歳	3,539,053 円
職業指導員・生活支援員	6 人	52 歳	2,588,980 円

【人件費率】

69.9%

利用者の状況

【定員及び現員】（令和3年3月31日現在）

にっこにっこ倶楽部		にっこにっこファクトリー		にっこにっこワーク		ホームかたくり		合 計	
定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
25	29	14	22	6	2	6	6	51	59

【利用状況】

利用率（令和3年3月）

にっこにっこ倶楽部	にっこにっこファクトリー	にっこにっこワーク	ホームかたくり	合 計
104.4%(26.1人)	117.9%(16.5人)	23.3%(1.4人)	92.5%(5.5人)	97.1%(49.5人)

年間利用状況

施設名	延べ利用者数	営業日数	1日平均利用者数	利用率
にっこにっこ倶楽部	6,287 人	252 日	24.9 人	99.6%
^^ファクトリーB型	3,960 人	252 日	15.7 人	112.1%
^^ 移行	742 人	252 日	2.9 人	48.3%
ホームかたくり	542 人	151 日	3.6 人	60.0%

※にっこにっこ倶楽部：令和2年11月定員増実施（20人→25人）年間25人の利用状況

※ホームかたくり：令和2年11月開所（5カ月の利用状況）

【年齢別状況】

街なか作業所 にっこにっこ倶楽部（定員25名）

	18歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 40歳	41歳～ 50歳	51歳～ 60歳	61歳～ 70歳	71歳 以上	合計	平均 年齢
男性	13	2	2	4	0	2	0	23	32.1
女性	3	0	0	1	2	0	0	6	36.0
総数	16	2	2	5	2	2	0	29	34.1

にっこにっこファクトリー（B型・移行 合計）定員20名

	18歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 40歳	41歳～ 50歳	51歳～ 60歳	61歳～ 70歳	71歳 以上	合計	平均 年齢
男性	5	1	2	3	3	1	0	15	38.2
女性	4	0	3	2	0	0	0	9	32.2
総数	9	1	5	5	3	1	0	24	35.2

ホームかたくり（定員6名）

	18歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 40歳	41歳～ 50歳	51歳～ 60歳	61歳～ 70歳	71歳 以上	合計	平均 年齢
男性	0	1	2	1	2	0	0	6	44.5
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総数	0	1	2	1	2	0	0	6	44.5

行事報告(研修他)

【行事】

令和2年度の行事（レクレーション）については、新型コロナウイルス感染症予防対策の一環としてほぼ行わなかった。

【研修】

1、職場内研修は年間予定の通り、時間を短縮するなどの対応を取り実施しました。

開催月	研修内容	開催月	研修内容
4月	施設職員としての基本姿勢	10月	インフルエンザ
5月	感染症（新型コロナ、ノロウイルス）	11月	業務のレベルアップ
6月	事故対応（ヒヤリハット）	12月	統合失調症
7月	ASD（自閉症スペクトラム）	1月	発達障害
8月	意思決定支援	2月	障害者虐待防止
9月	ストレスマネジメント	3月	チームワーク

※新規採用の職員及び準職員に対しては、随時、「障害者支援の基本姿勢」についての内部研修を実施しています。

2、外部研修はコロナ禍であり、ほとんどがZoom等のオンライン研修となっており、必要に応じた最小限の実施となりました。

開催月	主催	研修会名	参加者
8月	桐生地区農業指導センター、	みどり市とまとクラブ加工講習会	2名
9月	群馬県ほか	刈払い機取扱安全研修会	1名
11月	桐生法人会	with コロナ after コロナの時代に向けて	1名
12月	群馬県社会福祉協議会	なんでも福祉相談員研修会Ⅱ	1名
3月	群馬県社会福祉協議会	なんでも福祉相談員研修会Ⅲ	2名

各事業所の状況

【街なか作業所 につこにつこ倶楽部】

就労継続支援B型事業所

平成25年12月開所

令和2年度の総利用者件数は6,287件の実績となり、前年の5,825件から462件増加しました。

また、障害福祉サービス事業収入は前年比3,009,626円増加の47,419,702円、就労支援事業収入は前年比324,962円減少の5,403,798円、経常増減差額は前年比299,794円減少の4,927,593円となりました。

主な要因としましては、新規利用者の増加と休みがちだった利用者の利用の安定により、実利用者数が月平均で1.75人増え、障害福祉サービス事業収入の増加にも繋がりました。8月には、初めて利用率が125%（1日平均25名）を超え、利用希望者も多いため、今後のことも考え、11月より定員を20名から25名に増やしました。これにより報酬単価が下がるため、収入の大幅な減少も心配されましたが、後半の5か月間ということもあり、前年比300万円の増加でした。就労支援事業収入と経常増減差額の減少の要因は、新型コロナウイルスによるものの影響が大きく、ほぼ通常通りの活動が出来ていた農作業を除いて、大きく収入が減りました。カフェは1か月の休業と開店していても外食を控える、展示スペースのキャンセル等の影響で客足が減少、下請け作業も先方の親会社からの受注の減少により、大きく前年よりも落ち込み、30万円あまりの減収となりました。

新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年となりました。まず、最初の緊急事態宣言発令時の4月から5月にかけての1か月間は、時差勤務（半日対応）と在宅支援、家族送迎を実施しました。その後は、感染予防対策をしっかりと施し、通常に近い形での支援を行ってきましたが、密状態を避けるための感染予防の観点からレクリエーション等行事の実施や参加は一年間、控えることとなりました。

コロナ禍ではあっても、安心笑顔の実践などにつこにつこらしさは続けてきました。ただ、実際にはソーシャルディスタンスを意識していくと、コミュニケーション面では難しこともあったりしました。外部との接触が困難になり、交流等もできないことで活発だった活動の自粛は残念なことでした。来年度は以前のように、そういった活動が再開できると、今以上の笑顔も生まれてくると思います。そうなることを願います

【にっこにっこファクトリー】

多機能型事業所（就労継続支援B型事業・就労移行事業）平成30年7月開所

事業所全体を通しては、新型コロナウイルスの影響があり、利用者には一時、利用を半日ずつでの通所をお願いする期間を設け、また在宅での支援も行い、また利用者が不安定にならないための支援なども行なった。事業所内においては新しい生活様式を踏まえ支援体制の整備を行なっていった。就労移行支援では、就職活動や外部への働きかけができないことが多かった中ではあったが、今年に入り、1名は就職活動でき、その後3月に就職できることとなった。生産活動も制限され、請負では作業が大きく減少し、ジャム菓子製造もイベント中止や客足減少はあったが、販売路線の拡大などがあり売上増加につながられた。

- ① 利用者数及び利用率について、就労移行支援事業が今年度で終了となるため利用者サービス移動があり、B型が定員14名のところ2月20名から3月時点で22名、移行が定員6名のところ2月4名から3月時点で2名となっている。利用率ではB型が令和1年度100%に対し、令和2年度は112%、移行が令和1年度67%に対し、令和2年度が48%になっている。
- ② 工賃について、令和1年度7,074円に対し、令和2年度は8,268円で1,194円の増加となっている。
- ③ 就労収入（売上）について、令和1年度はジャム菓子収入2,615,127円、下請作業収入699,487円で合計3,314,614円、令和2年度はジャム菓子収入2,910,932円、下請作業収入406,580円で、合計が3,317,512円で、合計では昨年度とほぼ同額となった。

新型コロナウイルスの影響が大きかったが、事業所としては利用者の精神面等の安定、感染防止に取り組みながら利用率も増やしていけるよう就労支援とB型支援を両立していく。売上アップに関してもジャム菓子では今後も販売路線の拡大や新商品の販売を目指して、さらなる売上アップを図っていく。

【ホームかたくり】

共同生活援助（グループホーム）令和2年11月開所

昨年11月に開所となり、家庭的な雰囲気を大事に、運営を目指す。今までの自宅から、ホームに入所された方がほとんどだったため、1週間毎日の利用までは時間がかかる様子が見られたが、利用自体は皆さん楽しそうな様子が見られた。

開所当初利用率は11月46.1%、12月は44.6%で、また1月になると、1人の利用者の無断での遠出があり、関係機関に相談し新型コロナウイルスの対策で、念のためホームでの隔離生活をしていただいた。そのため他の利用者は自宅に戻り、利用が制限されている。

2月以降は利用率が上がり3月時点で利用者は定員の6名に達し利用率は92.5%になった。現在もホーム利用に皆さん慣れてもらっている段階もあるが、居心地の良さや安心感を持ってもらえるように今後も運営していきたい。新型コロナウイルスの対策も入所施設ということでも、しっかり行なっていきたい。